

G-1 10:00 **どう聴き、どう伝え、どう調整するか**
人間関係を構築し、ミス・コミュニケーションを減らす

グローバルナレッジネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント 産業カウンセラー 田中 淳子

【セミナーの狙い】 プロジェクトにおけるトラブルにはたいていコミュニケーションが絡んでいます。目的が共有されていなかった、伝える「時」「相手」「方法」を間違えた、相手に正しく理解されなかった、などは誰でも経験があるでしょう。コミュニケーションは生来の資質に依存するものではなく、スキルとして学習することができるものです。このセミナーでは、誰でも活用できる「スキル」を学び、ひとつでも多くの気づきを持ち帰っていただくことが目的です。

【セミナーコンテンツ】 ●コミュニケーションとは●伝えたこと≠伝わったこと●人間関係を構築する●目的を共有する●相手の言いたいことを理解する●自分の考えを的確に伝える●他者の発言を整理する●質問に答える など。
(単なる座学ではなく、隣同士で会話する演習があります。)

【受講をお奨めする方】 利害関係者とのコミュニケーション(ヒアリング、説明、会議進行、質疑応答など)で、自らのスキルアップを目指したい方。

【講師略歴】 1986年日本DEC入社。96年グローバルナレッジネットワーク入社。ヒューマンスキル分野の人材育成に従事。プロジェクトマネジャーにコミュニケーションスキルを教えることも多い。「日経コンピュータ」「PMマガジン」などでコミュニケーションに関する寄稿多数。著書「速効! SEのためのコミュニケーション実践塾」(日経BP社)「はじめての後輩指導」(日本経団連出版)「ヒューマン・スキルの道具箱」(http://www.g20k.jp/)

G-2 13:45 **ITプロジェクトのためのなぜなぜ5回(階)**
現場と組織を繋ぐ5つの質問と5つの階層

株式会社富士通アドバンストエンジニアリング **SiG**
共通技術センターPMO推進室 担当部長 小原 由紀夫

【セミナーの狙い】 トヨタ生産方式(TPS)において真因追究手法として「なぜなぜ5回」が使われ、PMBOK®での品質管理のツールと技法の1つと考えられる。しかし、ITプロジェクトでは真因に辿り着く前に行き詰ってしまうことが多い。PMAJ-IT-SIGのWGにおいて、「なぜ」の前、「なぜ」と「なぜ」の間、「なぜ」の繰り返し方を研究してきた。世界一の品質を生み出す工場で体得した「なぜなぜ5回」の本質をITプロジェクトに適用するために、現場と組織を繋ぐ5つの質問と5つの階層が有効であることがわかった。WGの1年間の成果を反映して、より構造化した「なぜなぜ5回」を紹介する。

【セミナーコンテンツ】 1. なぜなぜ5回(階)の概要、2. 問題の識別、3. 5つの質問、4. 5つの階層、5. 実践への提言

【受講をお奨めする方】 1. ITプロジェクトのプロジェクトマネージャ、リーダー 2. IT企業の経営者、マネージャ、スポンサー 3. TPSに興味のある方。

【講師略歴】 1983年富士通入社、出向、転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネージャとして参画した。TPSおよびグローバルPMメソッドを普及している。PMI会員誌PM NETWORK本年4月号でグローバルに紹介された。PMP®。米国ケイデンスマネジメント社認定講師。PMAJ会員。PMI®会員。PMAJ-IT-SIG「TPSに学ぶPM」WG主査。

H-1 10:00 **コンフリクト・マネジメント**
多様化する職場での協調的問題解決

株式会社オイコス
伊藤 滋

【セミナーの狙い】 多様性を前提とする雇用環境において、職場の問題、ビジネスの問題を捉えるコンフリクト・マネジメントの基礎的考え方を紹介する。また、Win-Winという概念を体感することによって、自らが囚われている「思いこみ」に気づき、幾つかのワークを通じて協調的問題解決アプローチのエッセンスやフレームワークを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】 コンフリクト・マネジメントの基本的な考え方や協調的問題解決モデルの紹介(レクチャーや体験学習)、グループワークやグループディスカッション、ケーススタディー分析など。

【受講をお奨めする方】 基礎的なマネジメント・スキル、(特に多様性の高い)職場での問題解決能力にご関心のある方。

【講師略歴】 株式会社オイコス メンター。名古屋大学国際開発研究科にて修士号取得。国際協力機構(JICA)にて国際協力の業務に従事し、ブラジルなどでの政府間交渉業務を行う。米国CTI認定コアアクティブコーチの資格取得後、主に異文化研修・多様性研修・ファシリテーション研修・リーダーシップ研修などを大手企業などに対して実施。異文化コーチングについても研究を行う。

H-2 13:45 **仕事をおもしろくするモチベーション・マネジメント**
あなた自身とチームのモチベーションに効く処方箋

株式会社JTBモチベーションズ R&D局
モチベーション・コンサルタント 菊入 みゆき

【セミナーの狙い】 モチベーションは、仕事を成果につなげる鍵である。「プロジェクトマネージャ自身が高いモチベーションを保ち、まわりのモチベーションをサポートする。」これができれば、プロジェクトの運営は格段にスムーズになり、成功への確率も高まる。あなたのチームのモチベーションは、いったい何に支えられているのだろうか。あなたの行動は、相手のモチベーションにどのような影響を与えているのだろうか。内発的なモチベーションは、どうすれば高まるのか。理論と実例の紹介、参加者同士のディスカッションを通じ、現場で使えるモチベーション・マネジメントを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】 モチベーションの特徴、モチベーションの自己分析、マネジメント・スタイルの自己分析、モチベーションの処方箋、最初の一步を踏み出すヒント、などを、講義とグループディスカッションの形式で学ぶ。

【受講をお奨めする方】 チームのモチベーションを上げたい方、仕事をおもしろくしたい方。

【講師略歴】 株式会社JTBモチベーションズ所属、モチベーション・コンサルタント。同社創業時(1993年)に入社、モチベーションを切り口に、顧客企業のモチベーション分析、コンサルティング、社員教育に携わる。「やる気」分析システムMSQの開発、各種研修プログラムの開発を担当。「やる気が出ないとき読む本」東洋経済新報社、「できる人の口ぐせ」中経出版、「仕事ができる人の8つの性格」幻冬舎など著書多数。

K 10:00 **実践的学習の実践的学習**
プロジェクトチームの学習を考える

松本屋
松本 潤二

ワークショップ

【セミナーの狙い】 昨今は特にプロジェクトの運営をする上で、チームメンバーの育成や熟達者からの暗黙的情報や技術の移転伝承が求められています。このような状況の中で、いかに効率よく知識を共有し、さらにその知識を実践に実践できるようにするかが、課題となっています。そこで、このセミナーでは、学習に関する知見をもとにして体験的に学習を進めます。特に、子供と大人の学習の仕方の違いを学び、効率的なプロジェクトチーム内の人材を育成するかを学習します。

【セミナーコンテンツ】 大人の学習の特性、協同学習、周辺参加理論、学習心理学などの知識。大人の学習の実践的な体験。

【受講をお奨めする方】 プロジェクトのマネージャーやリーダー、OJTのトレーナーなど、チームの中で人材の育成や管理に携わる人。チームメンバーや後輩に技術等をうまく教えたり伝授したい人。

【講師略歴】 ソフトウェアハウスを経て起業。プロジェクト・ファシリテーションを実際のシステム開発の現場で実践、アジャイルプロセスやコーチングなど、技術と人間力を最大限に活用するチーム創りと、人材の積極的な育成を行う。また、プロジェクトチームにだけでなく、経営者やエンジニアを中心にパーソナルコーチングや、人材育成やコミュニケーション活性化、IT技術の研修の講師を行う。

M 10:00 **ふりかえりによるカイゼンワークショップ**
プロジェクトシミュレータによるカイゼン演習

株式会社永和システムマネジメント コンサルティングセンター
センター長 天野 勝

ワークショップ

【セミナーの狙い】 新規開発、保守開発、システム運用などのITプロジェクトを進める上で、ふりかえりは、知識を得ること、さらには知識を知恵へと昇華するのに必須の活動といえる。しかし、ふりかえりミーティングの頻度や、必要工数の最適値は、プロジェクトの特性に依存するため、効率よく行えていないという現状がある。そこで、プロジェクトの特徴的な属性をパラメータとするプロジェクトシミュレータを用いて、プロジェクトを俯瞰的に捉えて、最適解を考えていく。さらには、ふりかえりミーティングの「生産性」の定義と、その向上のコツを演習を通して学んでいただく。

【セミナーコンテンツ】 KPTふりかえり、プロジェクトの見える化、プロジェクトシミュレータによるカイゼン演習、ふりかえりによるプロジェクトカイゼン、ふりかえりミーティングの生産性。

【受講をお奨めする方】 ITプロジェクトの現場にカイゼンを導入しようと考えているプロジェクトマネージャ、およびチームリーダー。

【講師略歴】 株式会社永和システムマネジメントにおいて、オブジェクト指向をはじめとするソフトウェア開発技術および、アジャイルソフトウェア開発プロセスの導入に関するコンサルタントとして活躍。オブジェクト倶楽部事務局長。著書:「eXtreme Programmingテスト技法-xUnitではじめる実践XPプログラミング」、「リーン開発の本質」、「アジャイルソフトウェア開発スクラム」、その他、雑誌への寄稿多数。

L 10:00 **チームのテクニカル・コミュニケーション力**
エンジニア・チームの知恵を高めるには

PS研究会、有限会社デバッグ工学研究所 **SiG** **ワークショップ**
松尾谷 徹(法政大講師,博士)、林 眞弓(立正大講師,産業カウンセラー)

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトにおいて、エンジニア各自の「知識」を「チームの知恵」とする課題がある。先進的なリーダーは、ヒューマンコミュニケーションに努め、ファシリテーションを導入し努力している。しかし、それだけでは「チームの知恵」を発揮することが困難である。ここでは、テクニカル・コミュニケーションを活性化するアプローチを加えたエンジニア・チームビルディングを習得する。

【セミナーコンテンツ】 1. エンジニアの価値観、2. チームビルディング基礎、3. リーダシップ基礎、4. HMコミュニケーションとテクニカルコミュニケーション、5. クリエイティブ型チーム これらの理論と演習をおこなう。演習はレゴを使ったものなどを用意した。

【受講をお奨めする方】 エンジニア同士できちんとインタフェースを決めてほしいPM、無駄なコミュニケーションをとりたくないエンジニア、仲良し日和見チームで困っているリーダーなど。

【講師略歴】 ●松尾谷徹: 2002年よりPS(パートナー満足)研究会を主宰し、プロジェクトにおけるプロフェッショナルの人的リソースの研究を推進。研究活動の一方で、現実の問題解決のため企業と連携した実証活動と、普及のためのセミナー活動を行っている。●林眞弓: 大手電機メーカーの人事部門を経て、現在、プロジェクトのコミュニケーションファシリテーションのコンサルと普及に従事している。両者ともデバッグ工学研究所に所属。

